

こやがわ
木屋川ダム再開発事業の検証に係る検討結果報告書

補 足 資 料

平成 24 年 12 月



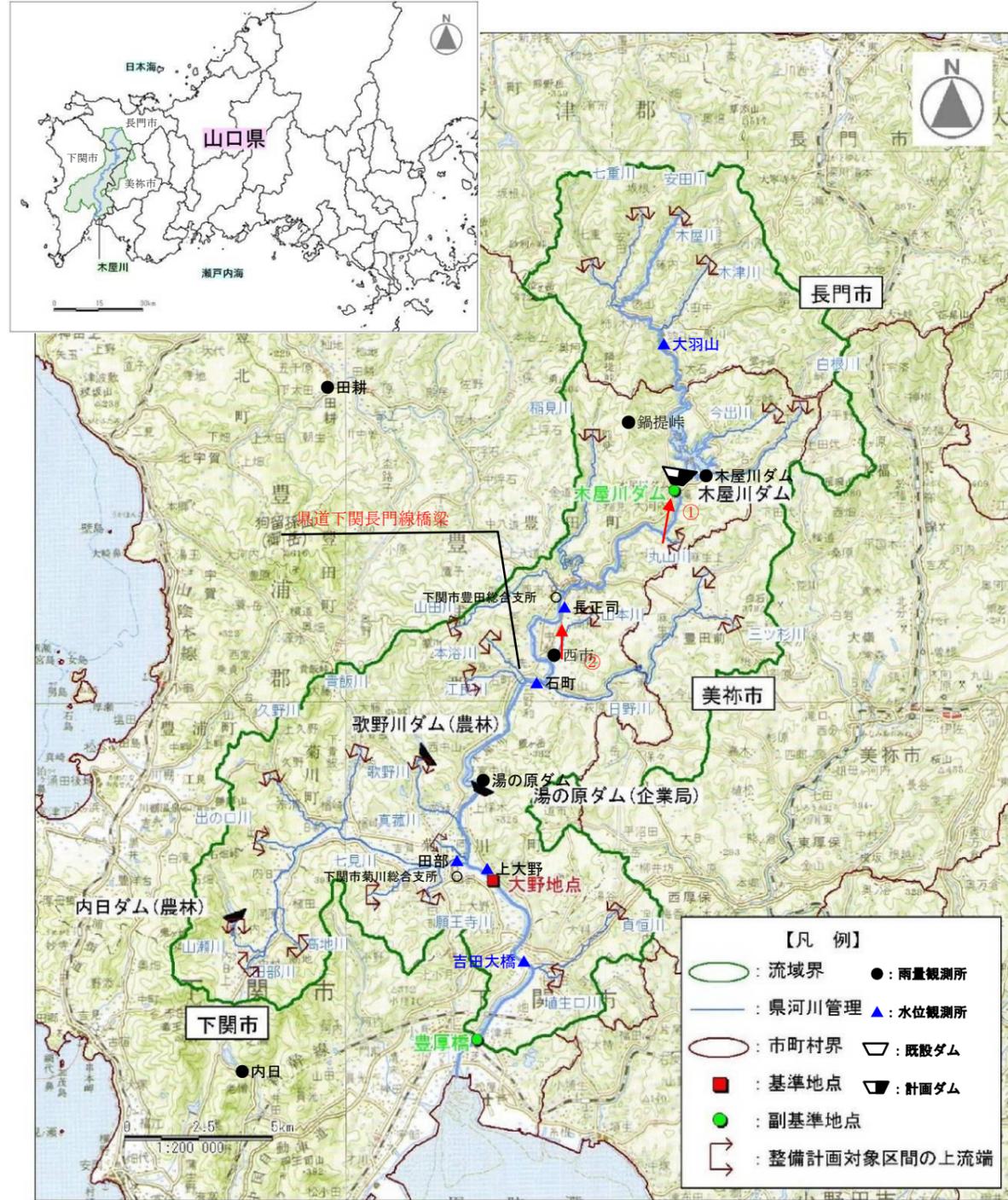
目次

1. <small>こやがわ</small> 木屋川流域及び河川の概要	1
2. <small>こやがわ</small> 木屋川ダム再開発事業の概要	3
3. <small>こやがわ</small> 木屋川ダム再開発事業等の点検の結果	3

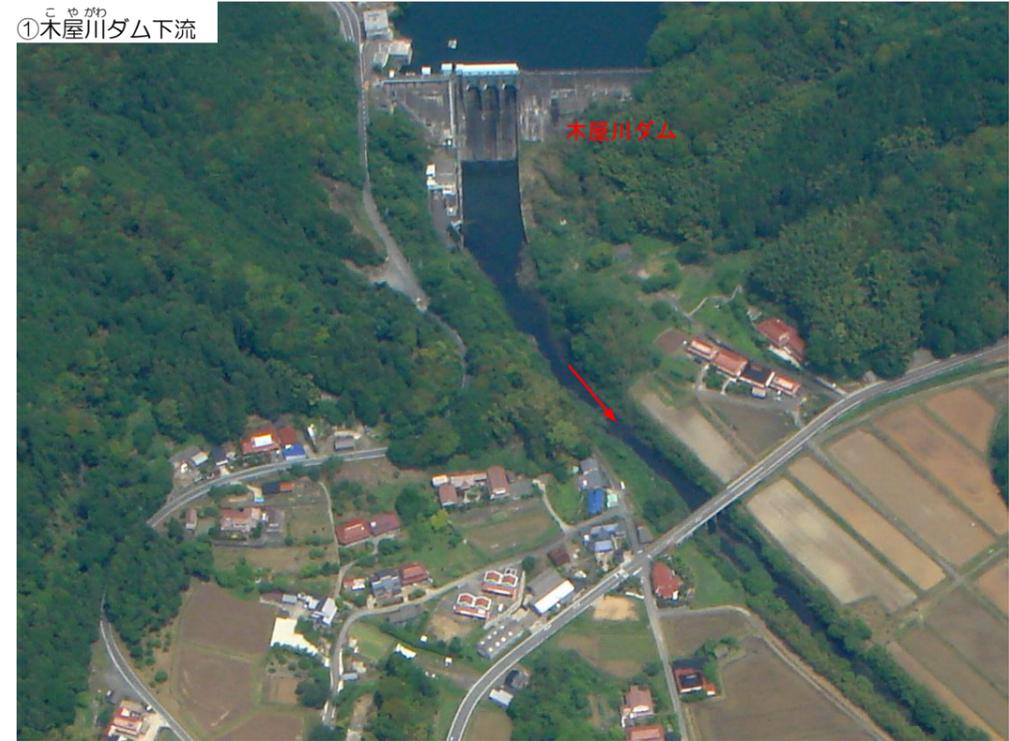
1. 木屋川流域及び河川の概要

① 流域の概要

木屋川は、長門市俵山の草添山山地（標高 501.2m）に源を発し、木屋川ダム、湯の原ダムを経て、途中で豊田盆地・田部盆地を大きく蛇行しながら、稲見川、日野川、田部川、貞恒川等の支川をあわせ、下関市にて瀬戸内海に注ぐ、流域面積 299.8km²、幹川流路延長 43.7km の二級河川である。



① 木屋川ダム下流



② 西海市街地



図-1.1 木屋川水系流域概要図

② 過去の主な洪水

木屋川流域では、木屋川ダム完成後も、昭和34年7月、昭和39年6月の梅雨前線豪雨等により、甚大な被害を受けた。近年では、平成11年6月、平成22年7月の梅雨前線豪雨により甚大な被害が発生している。

表-1.1 既往洪水の概要

洪水年月日	原因	24時間雨量 (mm/24hr)	家屋被害				被害額 (百万円、 H16年評価額)	備考
			家屋 流出 (戸)	全壊 半壊 (戸)	床上 浸水 (戸)	床下 浸水 (戸)		
昭和34年7月13日～14日	梅雨前線	293	3	28	416	783	5,714	※1
昭和39年6月26日～27日	〃	164	—	13	47	652	2,614	※1
平成11年6月28日～29日	〃	191	—	—	11	38	1,550	※2
平成22年7月10日～16日	〃	186	—	7	63	241	1,389	※3

※1 内水被害、土砂災害を含む

※2 内水被害を含む

※3 土砂災害を含まない

出典：豊田町広報第54号昭和34年8月10日発行
広報きくがわ第19号昭和34年8月10日発行
山口県災異誌(第3巻)、(第4巻)
平成22年度版水害統計

③ 河川環境の特徴

木屋川は、中流から上流にかけて国の天然記念物である「ゲンジボタル発生地」に指定され、地元では官民一体となった保護活動が続けられている中、地域の観光資源としても利用され、豊田まつりには毎年5,6万人、ホテル舟には毎年2千人以上が訪れている。このため、ゲンジボタルの生息地としての河川環境や河川改修のあり方が課題となっている。



図-1.2 天然記念物指定区間

④ 河川整備基本方針及び整備計画

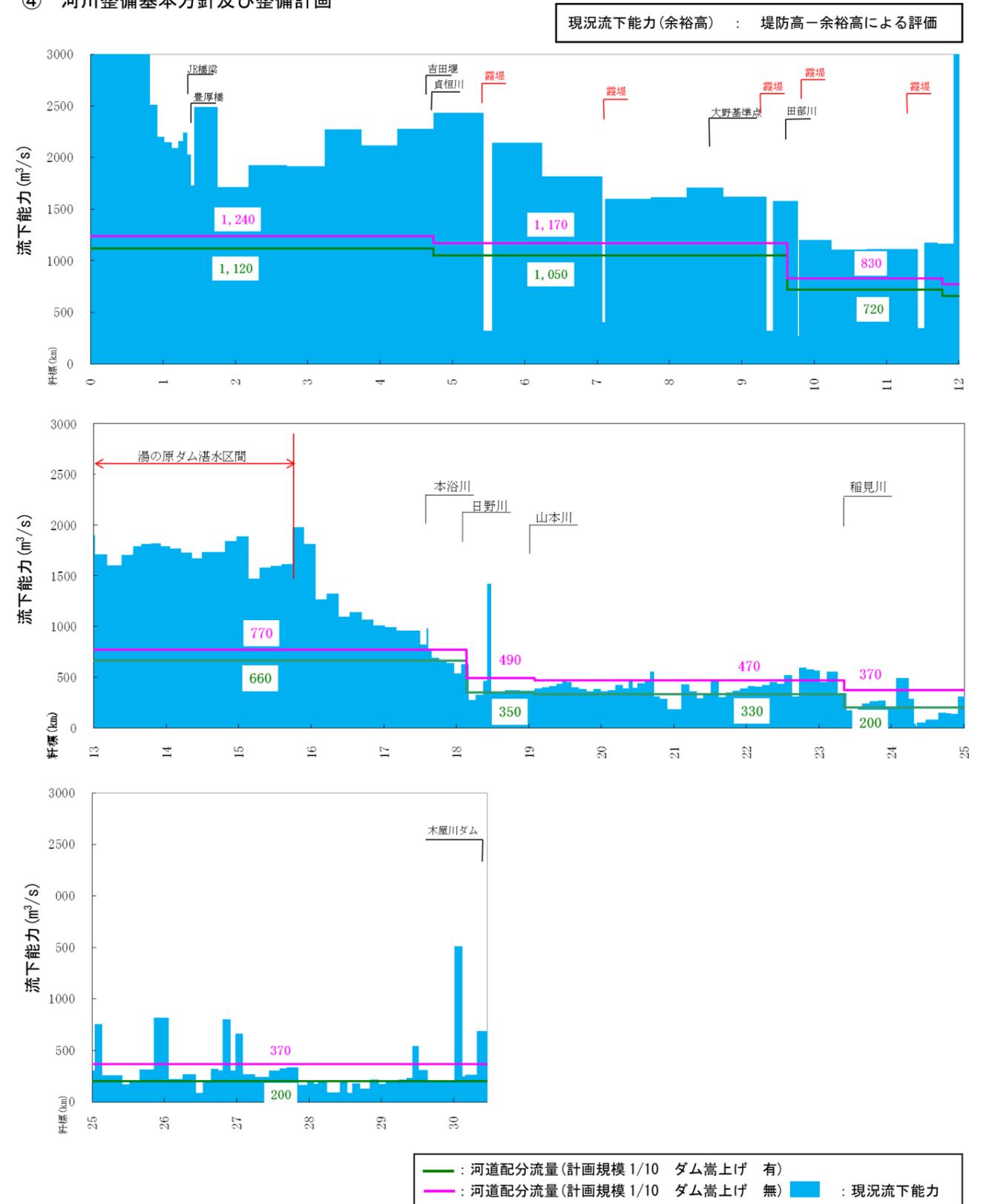


図-1.3 木屋川流下能力図(計画規模(1/10))

2. ^{こやがわ}木屋川ダム再開発事業の概要

① 現在の進捗状況

木屋川ダム再開発事業の現在の進捗状況（平成22年度末）は事業費ベースで約0.15%である。

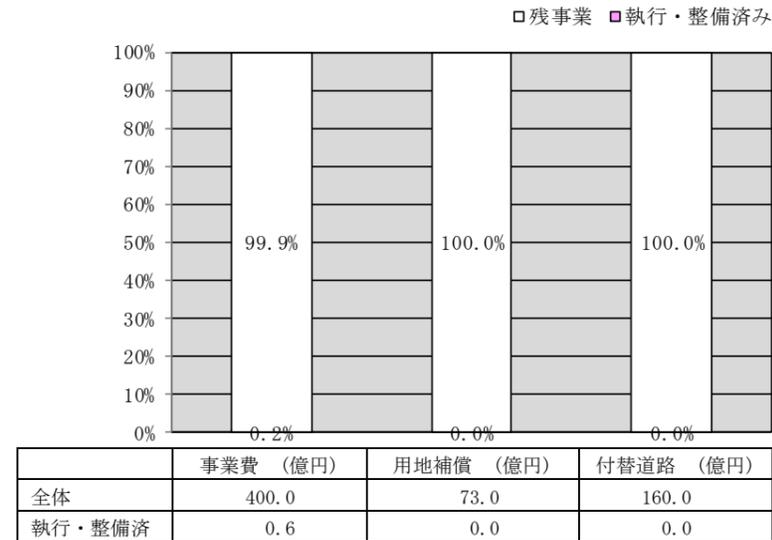


図-2.1 木屋川ダム再開発の進捗状況(平成22年度末)

3. ^{こやがわ}木屋川ダム再開発事業等の点検の結果

① 堆砂計画

既計画は、昭和30年～平成12年までの^{こやがわ}木屋川ダム実績堆砂データ等を用いて計画比堆砂量 $40\text{m}^3/\text{km}^2/\text{年}$ 、計画堆砂量520千 m^3 としている。

近年（平成13年～平成21年）のデータを追加して検討を行った結果、現計画における計画堆砂量は妥当であると判断した。

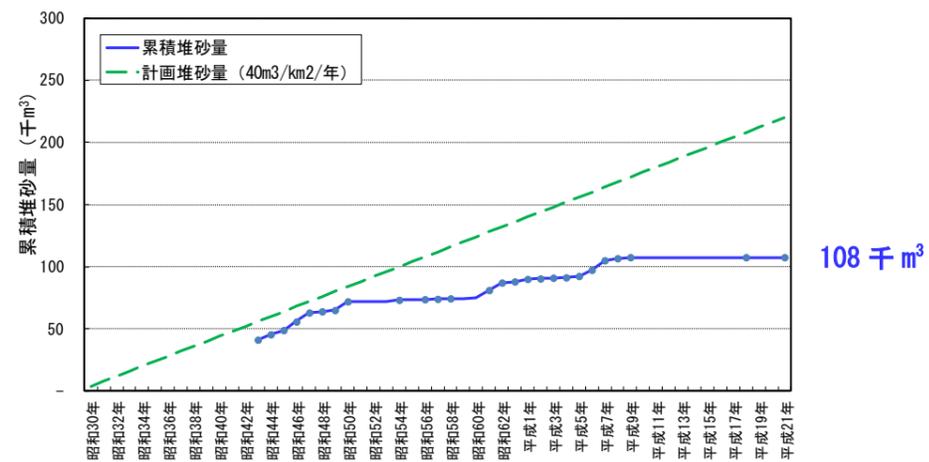


図-3.1 ^{こやがわ}木屋川ダム貯水池堆砂図

